

室蘭工業大学-学報

NO.650



第48回蘭岳コンサートの様子
(6 ページに関連記事あり)

2023年12月号

目 次

◇ 海外紀行 ◇	
若手科学技術関係者の招へいプログラム（四川省）・中国四川省訪問記	1
◇ トピックス ◇	
「北海道立札幌医科大学・国立大学法人室蘭工業大学 デジタル医工連携セミナー」を 開催	3
第48回蘭岳コンサートを開催	6
ビジネスEXPO「第37回北海道技術・ビジネス交流会」に出展	7
室蘭聾学校職業体験を実施	9
地域PBL発表交流会を開催	10
紋別高校で出前授業を実施	12
令和5年度第2回国立大学協会北海道地区支部会議を開催	13
学生後援会支援の「100円定食」を実施	14
◇ 情報・資料 ◇	
MONOづくりみらい共創機構「プレ共同研究」（1回目）の採択	15
◇ 外部資金 ◇	
民間等との共同研究の受入れ	16
受託研究等の受入れ	17
奨学寄附金の受入れ	18
◇ 人 事 ◇	
人事異動	19
表彰	20
◇ 学内会議 ◇	
学内各種委員会等の開催	21
◇ 日 誌 ◇	
学内行事・学外行事	22

海外紀行

若手科学技術関係者の招へいプログラム（四川省）・
中国四川省訪問記

もの創造系領域 助教 井口 亜希人

1. はじめに

2023年10月19日(木)～24日(火)に中国四川省成都市および都江堰市を訪問しましたので、報告します。本訪問プログラムは、中国科学技術部が主催となり、日本側(日本科学技術振興機構[JST]さくらサイエンスプログラム)が日本の若手科学技術関係の参加者を募集したのち、見学・訪問の形式で中国に招へいする事業で、両国の人的交流の深化および共同・協力のための民意醸成を目的に行われました。今回、私含む四川省訪問組は全国から10名の参加者が参集し、研究所・大学・省庁の事務職員、技官、教員と多岐にわたる職員の方が参加されていました。四川省成都市を中心にチャーターのバス移動で市の東西南北をくまなく巡り、四川省の科学技術関連施設、重要文化施設等を訪問しました。

2. 訪問内容

10月19日深夜に成都市(天府空港)に到着し、20日から四川省の各施設の訪問が始まりました。初日は訪問に先立ち、四川省科学技術交流センター主催の歓迎座談会があり、主催者・訪問団相互の紹介と今回の訪問の目的・意義などを共有しました(写真1)。その後、JSTから米山 春子 参与、中国科学技術部から柏 燕秋 様および現地関係スタッフの引率のもと、訪問事業がスタートいたしました。訪問1日目は、国立スーパーコンピューティング成都センター、天府新区および天府新区企画館、精華大学エネルギーイノベーション研究院、中国科学院成都山地災害・環境研究所の訪問および人的交流を行い、中国の科学技術や発展の状況について理解を深めました。この日、特に印象的であったのは天府新区の訪問でした。天府新区は科学技術イノベーションの源泉となるべく、区画の7割は元の自然環境が残るように計画的に開発された新しい区画で、区内には国家級の科学研究機関やイノベーションプラットフォームが複数存在しています。2つの国際空港(天府国際空港・双流国際空港)へのアクセスも近いことから、国内外を繋ぐ窓口としても重要視されています。精華大学エネルギーイノベーション研究院も天府新区にある施設で、大学と省庁とのコラボレーションで生まれた研究院です。大学で行われているエネルギー技術に関する研究が商品化・量産化へとつながるよう、橋渡しとなる役割を担っており、実際の製品化例もあることから、実際のイノベーション機関として有効に機能しているようでした。天府新区企画館では、2018年頃は建屋一つ見えなかった光景がものの数年で新たな街が1つ生まれた様子が映像や模型で説明され、訪問団一同、開発速度とそのダイナミックさに驚かされました(写真2)。訪問2日目、3日目は休日であったことから、主に四川省にある三星堆遺跡や都江堰水利施設といった重要文化施設を訪問し、中国の古代文明(長江文明)や三国志の孔明の時代より続く水利工事による河川の整備の歴史を体感しました。そのほか、日本のJICAが監修に関わっている青



写真1. 訪問初日の歓迎座談会の様子



写真2. 開発が進んだ天府新区

少年防災体験館やジャイアントパンダ保護研究施設を訪問し、過去の日中共同事業の軌跡について知見を深めました。訪問日程の最終日である4日目は四川大学を訪れ(写真3)、学術関係者との交流や協力の可能性について意見交換しました。その後日中共同事業の一例である一汽トヨタ成都を訪問し、工場見学および現場のトヨタ社員の方との交流や日本の社員が中国で事業を行う上での実情を垣間見ることができました。



写真3. 四川大学訪問

3. 次年度参加者へ向けたメッセージ

私のこれまでの中国訪問経験は2016年の上海1度きりであり、国際会議に参加するための滞在だったため、深く中国の事情や文化に触れることはこれまでにありませんでした。本学も中国等からの留学生が多く、研究室に所属する学生の国籍は多様化が進む状況ではありますが、日々の職務を行いながら彼・彼女らの背景や文化を深く知ることはなかなか難しいかと思います。コラボレーションをする上での初歩はまず互いを知ることから始まると思いますので、今回の訪問は大変良い機会となりました。今後の共同・協力への繋がりになるかと思しますので、本学から来年度以降も是非、本プログラムにご参加いただけると良いかと存じます。

トピックス

「北海道立札幌医科大学・国立大学法人室蘭工業大学 デジタル医工連携セミナー」を開催

札幌医科大学と室蘭工業大学は、平成19年11月20日付
けで締結された連携協定に基づき、教育研究に係る教職
員及び研究者との交流等に取り組んでいるところです。

このたび、交流の一環として両大学の共催により、昨
年に引き続き、標記セミナーの第2回目を10月27日(金)
に本学教育・研究3号館N棟N401講義室で開催し、会場
には約70名がオンラインでは約120名が参加しました。開
会の挨拶で空閑学長は「本学は医工連携に力を入れてお
り、本学の理工学部出身の学生が医療系分野に触れるこ
とによって、医療情報学や生体情報学などの分野に広が
ることを期待している。本セミナーを継続して実施して
いくことによって、研究の面から、学生諸君の人材育成
の面から、非常に大きな力となっていくと考えている。」
と話しました。

来賓の室蘭市の青山市長は「私が室蘭工業大学在籍中
は、札幌医科大学との連携の話は聞いたことがなかった
が、北海道の医療の中核を担っている札幌医科大学と、
地元の室蘭工業大学が連携することによって、医療従事

者の負担軽減、患者の命を救う最先端の医療技術の研究
開発などが進むことを期待している。」と話し、室蘭市医
師会の野尻会長は「私の母校である札幌医科大学と地元
の室蘭工業大学がコラボをされるということで、最先端
の医療の研究開発を行うということで、非常に期待して
いる。」と話しました。

その後、シンポジスト等による講演と質疑が行われ、
セミナーは盛況のうちに終了しました。

最後に、閉会挨拶で山下理事長・学長は「青山市長と
野尻会長から来賓の挨拶を賜り一段と拡張の高いセミ
ナーとなり、また、シンポジストから発表のあった共同
研究については昨年と比較して研究が進展しており、社
会実装が近づいていると感じた。来年は札幌でまた開催
したい。」と話しました。

今後も本セミナーを継続的に開催し、両大学の融合研
究を推進することにより、世界トップレベルの研究開発
と地域医療への貢献を目指します。



挨拶する空閑学長



挨拶する青山市長

トピックス



挨拶する野尻会長



挨拶する山下理事長・学長



司会進行する斎藤医学部長（左）と松田理事（右）



講演する真理谷先生



太田先生の講演（オンライン）



講演する横山先生



講演する近藤先生



講演する小山先生



会場の様子

第48回蘭岳コンサートを開催

令和5年10月28日(土)に大学会館多目的ホールにおいて、第48回蘭岳コンサートを開催し、市民、教職員及び学生約120名強が演奏を楽しみました。

今回は、ご夫婦でnicoichiviolin(ニコイチヴァイオリン)のユニット名で活動されている齋藤真知亜氏、齋藤律子氏をお招きしました。

コンサートの第1部の「メヌエット ト長調」と「子守歌」では、初めての発表会をイメージした子供役とピアノ伴奏者役の設定でパフォーマンスを入れながら披露しました。お二人が幼少期に使用していた小さな小さなヴァイオリン(1/16サイズ)を使用しての演奏と幼少期の練習のエピソードなどもお話いただき、時には笑いを取り客席の心をぐっと引き寄せました。

その後、「ユーモレスク」の演奏と個人的下積みや基礎練習についてのお話があり、「ヴァイオリン協奏曲第5番より第1楽章」第1部の最後は、「ガボット」ご夫妻の息の合った素敵なトークと演奏に、会場内はニコリゆったりとした優しい時間が流れ、観客は魅了されて

いました。

コンサートの第2部では、「タイスの瞑想曲」の演奏後、響きについてのお話があり、その後、「ホーム・スイート・ホーム(埴生の宿)」と第2部最後の演奏「シャコンヌ」の演奏がありました。

本学の会場はコンサートホールとは違いますが、お二人の2台のヴァイオリンが奏でるヴァイオリンの響きは素晴らしく、会場内に響き渡るとともに、聴衆の心にも響き渡っていました。

アンコールでは、お二人のCDのタイトルともなっている「主よ、人の望みの喜びよ」を演奏いただき、もっと演奏を聴いていたいという観客からの盛大な拍手に包まれながら、終演となりました。

なお、今回のコンサートにおいて、「令和5年7月7日からの大雨災害義援金」をお願いした結果、皆様から寄せられた義援金は19,700円となりました。ご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、ご報告を申し上げます。



幼少期に使用していた小さな小さなヴァイオリン(1/16サイズ)の演奏の様子



トークの様子



トークの様子



コンサートの様子

ビジネスEXPO「第37回北海道技術・ビジネス交流会」に出展

令和5年11月9日(木)～10日(金)に経済産業省北海道経済産業局や北海道等の機関が主催する北海道最大級のビジネスイベント「ビジネスEXPO 第37回北海道技術・ビジネス交流会」がアクセスサポロで開催され、本学から次の取り組みや研究シーズの紹介を行いました。

本学の出展ブースには2日間にわたって多くの来場者が訪れ、大学の教育・研究および産学官金連携に関する取り組みの説明を行いました。

本学の出展内容は下記のとおりです。

- ・「情報×専門」人材の育成 共創情報学コース始動
- ・「工業製品/情報システムの主観/官能評価とそのモデル化」製品/システムのユーザ評価とその自動化
システム情報学ユニット 小林 洋介 准教授
- ・「CN志向のイノベーションエコシステムの形成戦略の策定」CN志向のイノベーションエコシステム形成
人間・社会ユニット 木元 浩一 准教授
- ・「建物内外で働く人の生(いのち)を衛(まもる)ために」ファン付き作業服は本当に有効か?
建築学ユニット 栗原 浩平 准教授
- ・「革新的な計測・解析システムの創出」超高感度の赤外吸収分光法の開発・応用
電気電子工学ユニット 趙 越 准教授
- ・「応急通信プラットフォームのデザイン」ICTで次世代の災害支援に貢献
システム情報学ユニット 徐 建文 助教
- ・「SARリモートセンシング技術の開発と応用」SARリモートセンシングによる防災・インフラ管理のDX化
システム情報学ユニット 泉 佑太 助教
- ・「人間のマルチモーダル感覚情報処理メカニズムの解明」心理学・脳科学でVRの高度化を目指す
システム情報学ユニット 寺岡 諒 助教
- ・「数理データサイエンスによる実問題解決」数理DSで産業の課題解決に貢献
システム情報学ユニット 鈴木 元樹 助教
- ・「ビーム伝搬法を活用した効率的な光回路要素の最適設計」快適な通信環境を支える光素子の高速設計
電気電子工学ユニット 井口 亜希人 助教
- ・「プラズマシミュレーションへの応用に向けた物理情報に基づく機械学習に関する研究」物理情報に基づく機械学習
電気電子工学ユニット 川口 悟 助教
- ・「FRP材料を用いた各種構造物の耐衝撃性向上法」構造物の耐衝撃性向上により命を守る
土木工学ユニット 瓦井 智貴 助教
- ・「超音波を駆使した先進的流動モニタリングシステム」複雑な流動構造をその場で『見える化』
機械ロボット工学ユニット 荘司 成熙 助教



出展ブース



小林洋介准教授



来場した高校生に説明する小林洋介准教授



研究シーズを説明する吉成教授



研究シーズを説明する吉成教授



研究シーズを説明する内山特任教授と高橋事務員

室蘭聾学校の職業体験を実施

令和5年11月9日(木)に室蘭聾学校中学部の職場体験学習の一環として、室蘭工業大学附属図書館で室蘭聾学校中学部の生徒2名の職業体験を実施しました。生徒たちは本の貸出返却などのカウンター業務を中心に、返却図書の配架や本の装備業務を体験しました。大学図書館ならではの専門的な図書を興味津々に眺め、資料に効率的にアクセスするための図書の分類法の説明などに聞き入っていました。

生徒たちからは、大学には宇宙の本がたくさんあった、本の配架や貸出業務を体験できてよかったなどの感想が寄せられました。



返却図書の配架体験

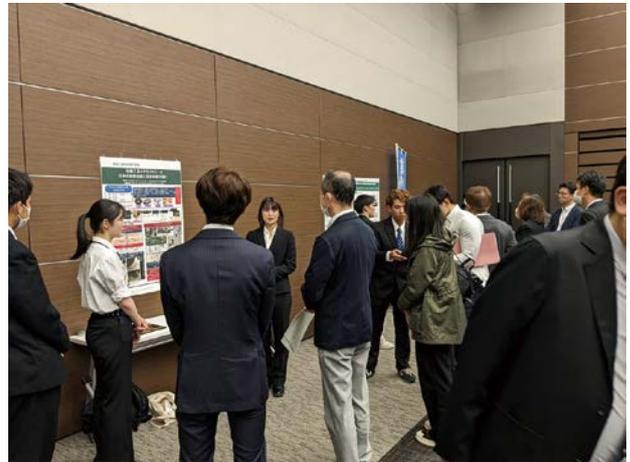
地域PBL発表交流会を開催

令和5年11月5日(日)に、地域PBL発表交流会を開催しました。

本発表会では、「学生と企業がミライの北海道を考える地域課題解決プロジェクト」と題して、大学・高専の学生が地域課題の解決を目指し考案したアイデアや実際の取組み(地域PBL)について発表し意見を交わしました。

今年は、昨年に引き続き、北洋銀行セミナーホールで開催し、学生、企業等40名の方々にご参加いただきました。

各発表チームの自己紹介の後、6チームの発表が行われ、ポスターや試作品を使って学生自身が考案したアイデアの発表後、実用化に向けた課題等について質疑があり、発表者の学生と活発な意見交換が行われました。意見交換終了後は表彰式があり、優秀賞には函館工業高等専門学校の「酪農・乳製品業界への光明～牛乳由来の製品のブランド化事業計画～」と、苫小牧工業高等専門学校の「情報セキュリティ教育教材の開発に関する研究」、がそれぞれ選ばれ、最優秀賞には、室蘭工業大学の「勤ピューター～導入による新規就農者増加、離農者の減少を目指す～」が選ばれました。最優秀賞の発表学生に対して、副賞(室蘭工業大学オリジナルジンギスカン鍋)の贈呈がありました。



地域PBL発表交流会の様子

勤ピューター ～導入による新規就農者増加、離農者の減少を目指す～

発表者 苫小牧工業高等専門学校システムコース3年 小野寺 尊

目的 一知識・経験に乏しい新規就農者をAI・IoTによって不足を補っている能力を補い、農業に定着してもらおう。

課題 1. 高齢化による経験の乏し、農機や知識不足
2. 離農に起因する、経験や知識不足

解決策 1. 人手不足によって先人たちの経験、知恵(ノウハウ)が失われていくのを防ぐ。2. 新規就農者へのノウハウの伝承・引き継ぎの方法を見つける必要がある。

成果 1. 新規就農者へのノウハウの伝承・引き継ぎの方法を見つける必要がある。

今後の課題 1. 新規就農者へのノウハウの伝承・引き継ぎの方法を見つける必要がある。

まとめ 勤ピューターの導入によって個人的だった農業が科学的な根拠をもとに「見える化」され、知識・経験の乏しい新規就農者でも**就職し続けやすくなる**。

室蘭工業大学
「勤ピューター～導入による新規就農者増加、離農者の減少を目指す～」

タクシードライバー不足解消に向けた 大学生ドライバー導入検討

発表者 情報電子工学専攻1年 山田 悠斗(主)システム専攻1年 久慈 大(副)情報電子工学専攻1年 2024/11/14

室蘭市の課題 少子高齢化による人材不足
2020年で少子高齢化の加速を遂げ、令和5年の推定人口は76,631人と減少が予測され、高齢化率も49.9%と増加が予測される。

大学生へのアピール点 1. 歩合制で給与が上がる
2. 知識と経験を補助するアプリで安心
3. 配車ドライバー選択アプリで就業決定

課題への解決策 1. 配車ドライバー選択アプリで就業決定
2. 歩合制で給与が上がる
3. 知識と経験を補助するアプリで安心

参考文献 1. 国土交通省「タクシードライバー不足解消に向けた取り組み」
2. 国土交通省「タクシードライバー不足解消に向けた取り組み」

室蘭工業大学
「タクシードライバー不足解消に向けた 大学生ドライバー導入検討」

函館工業高等専門学校

酪農・乳製品業界への光明
～牛乳由来の製品のブランド化事業計画～

専任教員 物産製造工学科 1 号館 2 号館 3 号館 4 号館 5 号館 6 号館 7 号館 8 号館 9 号館 10 号館 11 号館 12 号館 13 号館 14 号館 15 号館 16 号館 17 号館 18 号館 19 号館 20 号館 21 号館 22 号館 23 号館 24 号館 25 号館 26 号館 27 号館 28 号館 29 号館 30 号館 31 号館 32 号館 33 号館 34 号館 35 号館 36 号館 37 号館 38 号館 39 号館 40 号館 41 号館 42 号館 43 号館 44 号館 45 号館 46 号館 47 号館 48 号館 49 号館 50 号館 51 号館 52 号館 53 号館 54 号館 55 号館 56 号館 57 号館 58 号館 59 号館 60 号館 61 号館 62 号館 63 号館 64 号館 65 号館 66 号館 67 号館 68 号館 69 号館 70 号館 71 号館 72 号館 73 号館 74 号館 75 号館 76 号館 77 号館 78 号館 79 号館 80 号館 81 号館 82 号館 83 号館 84 号館 85 号館 86 号館 87 号館 88 号館 89 号館 90 号館 91 号館 92 号館 93 号館 94 号館 95 号館 96 号館 97 号館 98 号館 99 号館 100 号館

【学生】×【企業】＝∞ ～255の乳海道を考える～

函館工業高等専門学校
「酪農・乳製品業界への光明～牛乳由来の製品のブランド化事業計画～」

函館工業高等専門学校

伝統工芸×テクノロジーで日本の超絶伝統工芸を持続可能に

専任教員 物産製造工学科 3 号館 2 号館 3 号館 4 号館 5 号館 6 号館 7 号館 8 号館 9 号館 10 号館 11 号館 12 号館 13 号館 14 号館 15 号館 16 号館 17 号館 18 号館 19 号館 20 号館 21 号館 22 号館 23 号館 24 号館 25 号館 26 号館 27 号館 28 号館 29 号館 30 号館 31 号館 32 号館 33 号館 34 号館 35 号館 36 号館 37 号館 38 号館 39 号館 40 号館 41 号館 42 号館 43 号館 44 号館 45 号館 46 号館 47 号館 48 号館 49 号館 50 号館 51 号館 52 号館 53 号館 54 号館 55 号館 56 号館 57 号館 58 号館 59 号館 60 号館 61 号館 62 号館 63 号館 64 号館 65 号館 66 号館 67 号館 68 号館 69 号館 70 号館 71 号館 72 号館 73 号館 74 号館 75 号館 76 号館 77 号館 78 号館 79 号館 80 号館 81 号館 82 号館 83 号館 84 号館 85 号館 86 号館 87 号館 88 号館 89 号館 90 号館 91 号館 92 号館 93 号館 94 号館 95 号館 96 号館 97 号館 98 号館 99 号館 100 号館

【学生】×【企業】＝∞ ～255の乳海道を考える～

函館工業高等専門学校
「伝統工芸×テクノロジーで日本の超絶伝統工芸を持続可能に」

(資料なし) 苫小牧工業高等専門学校 「情報セキュリティ教育教材の開発に関する研究」

(資料なし) 苫小牧工業高等専門学校 「放置自転車を再利用したシェアサイクル運営」

北海道紋別高等学校で出前講義を実施

令和5年11月9日(木)に北海道紋別高等学校で、安居光國 准教授による出前講義が行われました。

授業では、26人の生徒がDNAの電子泳動の観察を体験しました。

電気泳動槽に流した高純度寒天ゲルに遺伝子を含む試

薬を垂らして遺伝子の観察をした後、遺伝子が移動した跡を記念撮影する生徒もいました。

生徒たちからは、大学の学びに触れたことで、大学に行きたいという気持ちが強まったなどの声が聞かれました。



令和5年度第2回国立大学協会北海道地区支部会議を開催

「国立大学協会北海道地区支部会議（令和5年度第2回）」が、12月1日（金）に室蘭工業大学を当番校として登別市内のホテルにて開催されました。

同会議には北海道地区7大学及び北海道国立大学機構の学長、理事長、事務局長等が出席し、文部科学省からは田井祐子高等教育局国立大学法人支援課企画官、国立大学協会からは村田善則常務理事・事務局長らが出席しました。

空閑良壽室蘭工業大学学長が議長を務め、「半導体・高度情報分野等の人材育成」等について協議の後、国立大学協会の村田常務理事・事務局長から「国立大学協会への職員派遣依頼について」、文部科学省の田井国立大学法人支援課企画官から「国立大学法人等を巡る最近の動向について」、高等教育行政の現状等にも言及しながらそれぞれ説明がありました。各大学等からは今後の課題に関する質疑があり、活発な意見交換がなされました。



説明する田井国立大学法人支援課企画官



北海道地区支部会議の様子

学生後援会支援の「100円定食」を実施

物価高騰への援助、学生に対するバランスが取れた食事の提供のため、学生後援会の御支援を受けて、学生食堂においてライス・味噌汁・おかずの3品を学生に100円で提供する「100円定食」が令和5年11月13日から11月17日にかけて実施されました。

第1弾のメニューは「チキンおろしだれ」で、各日と

も用意した100食はすぐに売り切れてしまうほど、大盛況のうちに終了しました。

来月・再来月にも1週間ずつ期間を設け、メニューを変えて第2弾・第3弾の100円定食の提供を予定しています。



チキンおろしだれの写真



配膳の様子

情報・資料

MONOづくりみらい共創機構「プレ共同研究」(1回目)の採択

令和5年度MONOづくりみらい共創機構プレ共同研究(1回目)公募の結果、次のとおり採択されました。

本事業は、本学教員と民間機関等との研究者が、次年度以降において民間機関等との共同研究へ発展させるための前段階に相当する共同研究に対して助成を行うものです。

研究代表者・職・氏名	民間企業等	採択金額 (千円)
しくみ解明系領域 教授 亀川厚則	トヨタ自動車北海道(株)	450
もの創造系領域 准教授 中田大將	Letara(株)	500
合 計 (2件)		950

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額 (千円)
もの創造系領域 教授 有村 幹治	独立行政法人	6,941
もの創造系領域 教授 河合 秀樹	大企業	2,200
もの創造系領域 教授 清水 一道	大企業	1,000
もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業	1,993
もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業	290
もの創造系領域 教授 廣田 光智	大企業	1,499
もの創造系領域 教授 廣田 光智	大企業	1,170
もの創造系領域 准教授 KIM JIHOON	中小企業	500
もの創造系領域 准教授 湯浅 友典	地方公共団体	125
もの創造系領域 助教 佐々木 大地	中小企業	250
しくみ解明系領域 准教授 葛谷 俊博	中小企業	500
合 計 (11件)		16,468

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金額 (千円)
もの創造系領域 准教授 安藤 哲也	公益法人等	1,320
もの創造系領域 助教 高橋 一弘	中小企業	400
合 計 (2件)		1,720

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

奨学寄附金の受入れ

寄附者	目的	金額 (千円)
株式会社構研エンジニアリング	工学研究助成	500
株式会社エーティック	工学研究助成	300
公益財団法人とさわ会	工学研究助成	2,500
株式会社複合技術研究所	工学研究助成	500
MONOづくりみらい共創機構研究協力会	研究及び助成事業のため	3,000
株式会社不動テトラ	工学研究助成	500
合 計 (6件)		7,300

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和5年11月16日	<p style="text-align: center;">〈採 用〉</p> MONOづくりみらい共創機構 特定専門職員 総務広報課総務広報係 事務補佐員	三田村 はるか 浦 田 順 子	
令和5年12月1日	<p style="text-align: center;">〈雇用期間更新〉</p>	市 川 真菜美 藤 原 あゆみ	大学院工学研究科 事務補佐員 総務広報課図書学術情報室 事務補佐員

永年勤続者表彰式を挙行

勤労感謝の日にあたり、本学の職員又は他機関の教育関係業務に永年従事された被表彰者に対して、11月20日(月)に本部棟小会議室において令和5年度室蘭工業大学永年勤続者表彰式が執り行われました。

表彰式では、学長から今年度の被表彰者に表彰状と記念品が授与されました。その後の挨拶で学長は、永年にわたる本学への発展・充実の労に対して深い敬意と感謝の意を表し、これからのさらなる活躍を願われました。

次いで、被表彰者を代表し、もの創造系領域の梶原秀一教授が、教員としての活動を振り返り、謝辞を述べられました。

また、式終了後は記念撮影が行われ、出席者は和やかなひとときを過ごしながらか、表彰を祝いました。

室蘭工業大学永年勤続者表彰被表彰者

しくみ解明系領域	吉田 雅典
もの創造系領域	梶原 秀一
しくみ解明系領域	工藤 康生
しくみ解明系領域	飯森 俊文
もの創造系領域	湊 亮二郎
施設課	加藤 聡
研究協力課	伊藤 陽平
入試戦略課	芦原 貴央
施設課	狩野 悦子
経営企画課	井内 大介
学務課	早坂 珠美
経理課	境 謙



表彰式の様子 1



表彰式の様子 2



学長とともに記念撮影

学内会議

学内各種委員会等の開催

<10月25日～11月24日>

開催日時 令和5年11月9日(木)
会議名 教授会(臨時)

開催日時 令和5年11月14日(火)
会議名 第21回役員会

開催日時 令和5年11月16日(木)
会議名 第7回学長特命連絡会

開催日時 令和5年11月16日(木)
会議名 第7回教育研究評議会

開催日時 令和5年11月16日(木)
会議名 第22回役員会

開催日時 令和5年11月21日(火)
会議名 第3回企画戦略会議

学内行事

- 10月27日(金) 北海道立札幌医科大学・国立法人室蘭工業大学 デジタル医工連携セミナー
- 10月28日(土) 第48回蘭岳コンサート
- 11月1日(水) 室蘭工業大学同窓会 役員交流会
- 11月1日(水) 令和6年度特別選抜(総合型選抜I・II・夜間主、社会人選抜)合格発表
- 11月15日(水) 教員のためのダイバーシティセミナー2023

学外行事

- 10月25日(水) 第47回国立大学55工学系学部長会議総会(三重県)
- 10月26日(木) 国立アイヌ民族博物館(ウポポイ)と包括連携協力協定を締結(白老町)
- 11月7日(火) QS Higher Ed Summit: Asia Pacific 2023(マレーシア)(9日まで)
- 11月20日(月) 第15回コラボ学長フォーラム(オンライン)

編集後記

◆ 最近は、広報誌「蘭岳」記事制作のため、大学院生やOB教員にご協力いただき、写真を撮影に行きました。好きなので勇んで撮影しましたが、戻ってチェックしますと8割ピンボケの写真でした。キリトリ方うんぬんでなく基本的なところがまだまだです。そんな蘭岳No.149は令和6年3月初旬発行予定です。こっそり読者アンケートも始めましたので、蘭岳を見かけた方はぜひ。

ところで、来年秋に発行予定の蘭岳はNo.150です。来年は室蘭工業大学が開学して75年目で、年2回の刊行頻度が変わっていなければ、開学当初から刊行していたということなのではないでしょうか。なかなか歴史のある広報誌でした。記念すべきNo.150は、全面リニューアルを予定しています。

蘭岳の他にも、教育研究・財務レポートも来年度から刷新する予定です。そして将来的には64ページぐらいの統合報告書に変えたいです。大学概要は、縮刷版をキャンパスマップに変えようと検討しています。掘り興せ、室蘭工大。

毎年この時期はN棟前がイルミネーションで美しいです。写真は昨年の12月21日の写真です。もちろんピンボケ。



(Garoon : 総務広報課総務広報係、E-mail : koho@muroran-it.ac.jp)

(総務広報課総務広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびょん」

■編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308